

②ミンク(哺乳類)

哺乳類	国外外来種	
	ミンク	
分類		
目名	ネコ目	
科名	イタチ科	
種名(亜種名:*)	ミンク	
学名	<i>Neovison vison</i>	
カテゴリー(北海道)	<input checked="" type="checkbox"/> A1/ <input type="checkbox"/> A2/ <input type="checkbox"/> A3/ <input type="checkbox"/> B/ <input type="checkbox"/> C/ <input type="checkbox"/> D/ <input type="checkbox"/> E/ <input type="checkbox"/> h/ <input type="checkbox"/> K	
カテゴリー(環境省)	<input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物/ <input type="checkbox"/> 要注意外来生物	
カテゴリー(日本生態学会ワースト100) / (IUCN世界の侵略的ワースト100)	<input type="checkbox"/> 日本の侵略的ワースト100/ <input type="checkbox"/> 世界の侵略的ワースト100	
導入の経緯		
原産地	アメリカ合衆国西南部以南を除く北アメリカ一帯(アラスカ、カナダを含む)(*5)	
導入年代	昭和3年11月に農林省がアメリカ合衆国から北海道に4頭を輸入したのが最初。野生化の正確な時期は不明だが、1953年から始まった本格的な飼育事業の発展に伴い、遺棄や逃亡による野生化が始まり、1960年代中頃には定着したと考えられる(*5)。	
初報告	1982年(*1)	
全国分布	北海道、栃木県、長野県、福島県、新潟県(新聞報道など)	
道内分布	全道に分布するが、海岸部をはじめとする水辺に多く、山地にはほとんど生息しない。	
導入の原因	毛皮養殖用飼育個体の逃亡・遺棄	
種の生態学的特性		
生活史型	母子関係は2ヶ月あまり続き、子は秋までに成体と同サイズとなるが、0才、1才の生存率は著しく低いものと予想される。	
形態	頭胴長:オス355-440mm、メス325-387mm、尾長:オス360mm、メス300mm、体重:オス655-1580g、メス360-877g(*4,5)。毛色は通常は黒いが、飼育技術によって、プラチナ、バイオレット、パステルなどの毛色タイプに区分されている。	
繁殖形態	飼育下では晩秋に交尾し、翌春に4~5頭の子を出産(*4)。野生化個体の資料からは、3月頃に交尾して5月中・下旬に5~7頭の子を出産すると推定される。メスの繁殖率は高く、成体は毎年繁殖すると推定される。	
生息環境	河辺ヤナギ林や湿地林を中心とする森林・ササ植生・水田。水辺を好む。	
特記事項	特になし	
影響		
被害の実態・おそれ		
①生態系にかかる影響	①直接捕食によるノネズミ、鳥類、魚類、両生類、甲殻類への影響(*2,3,4,5)	
②農林水産業への影響	②養鶏、養魚場における食害	
③人の健康への影響	③不明	
被害をもたらしている要因		
①生物学的要因	①競合する可能性のあった在来の近縁種であるニホンカワウソの絶滅	
②社会的要因	②1953年から本格化した毛皮目的の増殖事業(*5)	
特徴並びに近縁種、類似種	同じく外来種であるニホンイタチと営巣場所や餌をめぐる競合関係があると予想される。ミンクが水系に強く執着するのに対し、ニホンイタチは水辺から山間部まで多様な環境に生息できる(*4)。	
対策	平成6年より狩猟獣指定	
その他の関連情報	1920年の記録を最後に絶滅したと言われているニホンカワウソの目撃情報が続いた1970年代のいわゆる「カワウソ騒動」は、野生化したミンクの誤認であったと考えられている(*5)。	
分布図	<input checked="" type="checkbox"/> 有り/ <input type="checkbox"/> 無し	
写真/イラスト	<input checked="" type="checkbox"/> 有り/ <input type="checkbox"/> 無し	
備考		
参考文献(省略、ホームページで全文献名掲載)		



2004 車田利夫(自動撮影装置にて撮影) 提供

